

真木

第 195 号

〒260-0852
千葉市中央区青葉町
1274-14
加藤峰子方
千葉県俳句作家協会
事務局
TEL 043-225-7115

〒299-1143
君津市君津台 2-8-4
石井紀美子方
「真木」編集部
TEL 0439-52-6254

目 次

千葉・県民芸術祭第62回千葉県俳句大会	1
新春交流会のご案内	3
千葉県俳壇ニュース	4
会員著書紹介	5
ひろば	6
受贈誌より	7
第6回千葉県俳句大賞、第35回協会賞の作品募集	8
基金御礼、新入会員一句・事務局日誌	9

千葉・県民芸術祭 第62回千葉県俳句大会

昨年の第六十一回千葉県俳句大会は、台風十九号の襲来のため中止となり、今年の第六十二回大会も春よりの新コロナウイルス蔓延が留まらず、その対応の方針で、能村研三会長の判断を得て中止となった。正直、二年連続の大会の中止。ご参加予定の諸氏のご期待に添えず、大変残念に思っている。

大会の準備は二月の大会案内の印刷物の作成に始まり、三月に後援をいただく各団体への依頼と挨拶廻り、四月より作品募集を開始。最終的には一般の部では三三一名の方から、一二〇句の投句を頂戴した。改めて厚く感謝を申しあげたい。

昨年の台風襲来と違い、今年はおそらく予想の付くコロナウイルスの蔓延への対応。五月には大会中止を決め、会場、後援団体への中止要請に廻り、

応募作品については紙上大会にすべく、各選者の選を経て、一冊の作品集とし、各選者の選句を表、表彰者の作品・氏名を付し、投句者全員に郵送することとした。

選者は招待選者の今井聖先生ほか、千葉県俳句作家協会の理事三十九名。別表のように千葉



県知事賞ほかの入賞者が決定。郵送を持って賞状・記念品の発送を終えた。

またジュニア部門では一九二五名の児童・生徒よりの参加があり、審査会メンバーによる選句の結果、十二名の小学生、十一名の中学生を、同紙上で表彰。ご協力くださった各地の学校教諭の諸氏に改めて厚く感謝の意を申しあげたい。

本来は十月十八日に予定していた千葉県俳句大会の会場でのあたたかい表彰の一刻をと願っていたが、紙上表彰ということとなった。事情推察の上、ご容赦を改めてお願い申し上げたい。

この俳句大会を主催する千葉県俳句作家協会では、実行委員長は二年間の輪番制となっている。私の担当した二年は全て大会が催せず、紙上大会となつてしまった。実質上、大会の実施運営より紙上大会の方が事務的な仕事は倍増する。多忙の中、お力をお貸し下さった事務局の諸氏に厚い感謝の意を表したい。またご投句くださった諸氏に親しく声をお掛けすることも出来ず、この役を終えることを残念に思っている。全ての作家の更によりき研鑽をと祈り、諸氏と共にこの美しき日本文化の伝統を大事に育ててゆきたいと思つている。

実行委員長 増成 栗人

【一般の部】

雑詠入賞者

千葉県知事賞

漁火といふ涼しさを沖に置く

千葉県議会議長賞

田水張るなみなみと空あふれさせ

千葉県教育長賞

徹拭ひやはり鷹作かも知れぬ

千葉県俳句作家協会会長賞

母の日や裁縫箱にわが名刺

千葉日報社賞

首振つて束ね髪解く海女若し

千葉市観光協会会長賞

雲の峰的中の矢の洞震ひ

優秀賞

妻の歩を吾が歩としたり初蝶来

児の五体空へ伸びぎる捕虫網

お隣りの空まで借りてこいのぼり

砂時計刻をこぼしたまま晩夏

サーファアの太平洋に立ち上がる

我孫子 久保アツ子

君津 大坪 秀生

市川 能村 研三

世田谷 関戸 信治

市川 楠原 幹子

松戸 浪岡はるか

船橋 猪瀬 達朗

我孫子 久保アツ子

君津 大坪 秀生

富津 山田たかし

南房総 東 國人

秀逸賞

夏来たるひらりひらりと象の耳

金魚玉水替へてより透く未来

八月十五日目玉焼き裏返す

樹木へともどらんか月光のチエロ

手で掬ふ水の旨さや木下闇

灯台や菜殻火は沖昏るるまで

春雨や耳やわらかくして眠る

夕焼けてもう鬼の来ぬかくれんぼ

半夏生座敷にて売る吉野和紙

塗箸の桶に沈みぬ夜の秋

萍の明るき雨となりけり

千葉 秋本 紀子

柏 新津 黎子

千葉 徳吉洋二郎

松戸 浪岡はるか

千葉 金子日出子

市川 栗坪 和子

世田谷 関戸 信治

我孫子 染谷 卓

印旛 寺嶋 和江

葛飾 頓所 友枝

野田 倉岡 けい

佳作賞

豊田 いと 袴田 菊子

関戸 信治 吉敷美根子

伊藤 和枝 楠原 幹子

中村 世都 黒澤 雅代

島 隆史 藤岡 貞夫

三枝 青雲

佐久間由子

大園 智子

木村 美翠

西隈 康代

【ジュニアの部】

表彰者

(小学生の部)

千葉県教育長賞 ちはら台桜小六年

夏の雲クラゲのように浮いている

千葉県教育長賞 四年 大塚 結以

かんせいだあせを流したひみつきち

千葉県芸術文化団体協議会長賞

はやすぎておねがいでできない流れ星

千葉県俳句作家協会会長賞 櫻井 心温

あじさいとないしよばなしかたつむり

千葉県俳句大会委員長賞 祇園小三年

集まってペランダに来るいわし雲

優秀賞 明神小五年 大島 亮毅

ひまわりや僕も黄色くかがやくぞ

々々 南清小三年 山田 篤樹

せみの声「いこーいこー」と聞こえる日

花いかだのつてみたいいな海までも

はるのかぜおもわずまぶたおもくなる

せんぶう機早くこつちを向いてくれ

ばあばはめつちややさしいさくらんぼ

大きな木ずっとと見てるとブロッコリー

藤代 啓汰

大塚 結以

白鳥 瑠那

櫻井 心温

加藤いろは

大島 亮毅

山田 篤樹

濱島 佑正

井倉 大惺

藤田 果歩

山口 優惺

(応募数六一〇組・一二二〇句)

(中学生の部)

千葉県教育長賞 南部中二年 石井 和彩

陽炎にマスクの私溶けていく

千葉県教育長賞 木更津第三中一年 滝口 悠真

一匹のせみ鳴く仲間待つように

千葉県芸術文化団体協議会長賞 木更津第一中一年 川崎 史菜

休校で増えた読書と長い梅雨

千葉県俳句作家協会会長賞 おおたかの森中三年 公田 亜優

かたつむり君だけが知る景色あり

千葉県俳句大会委員長賞 々々 根本 りな

しも柱どこを踏んでも違う音

優秀賞 慶應義塾中等部三年 菊池 優太

梅干しや祖母の真心甘酸っぱい

々々 南部中一年 幡野 昂誠

梅雨のなか心は湿って一人の夜

々々 高澤 大夢

銀杏をつぶして歩いた通学路

々々 二年 山口 大輝

せみの声課題が全然終わらない

々々 常盤松中三年 阿部 珠夕

暗闇の大きな画用紙火花かな

々々 おおたかの森中三年 池内 遥

うるささの中に安らぎせみの声

応募数一人一句・一九二五名
小学生八〇四名・中学生二二二名

千葉県俳句大会優勝者再見

〔兼題(上段)・席題(下段)〕

- 第31回 (平成元年度) 森澤 照子・末永 弘子
- 第32回 (平成2年度) 津島 青魚・今井 麗雪
- 第33回 (平成3年度) 石井紀美子・石井紀美子
- 第34回 (平成4年度) 鳥飼栄美子・樋口 津く
- 第35回 (平成5年度) 相原 一枝・村山 繁子
- 第36回 (平成6年度) 吉岡 純子・河合 凱夫
- 第37回 (平成7年度) 鳥飼栄美子・井上 純郎
- 第38回 (平成8年度) 石橋 きよ・伊藤 孝道
- 第39回 (平成9年度) 齊藤すず子・橋本 五月
- 第40回 (平成10年度) 小林野菊子・伊藤 昌信
- 第41回 (平成11年度) 齊藤 和子・堀部 寿子
- 第42回 (平成12年度) 植木 ひさ・藤倉 哲夫
- 第43回 (平成13年度) 錫田 一歌・石井紀美子
- 第44回 (平成14年度) 粟津 淑子・川合 憲子
- 第45回 (平成15年度) 齊藤すず子・小川たかし
- 第46回 (平成16年度) 井上 匡・橋本 五月
- 第47回 (平成17年度) 司 すぐる・茂木 義守
- 第48回 (平成18年度) 山崎 幸子・馬淵 津枝
- 第49回 (平成19年度) 吉岡 咲子・大藪 智子
- 第50回 (平成20年度) 内山 花葉・山本 無蓋
- 第51回 (平成21年度) 福川いつみ・保坂 和郷
- 第52回 (平成22年度) 保坂 和郷・石井紀美子
- 第53回 (平成23年度) 馬淵 津枝・保坂 和郷
- 第54回 (平成24年度) 保坂 和郷・藤岡 貞夫
- 第55回 (平成25年度) 齋藤 厚子・加藤 法子
- 第56回 (平成26年度) 大河内卓之・菊地 光子
- 第57回 (平成27年度) 三枝かずを・保坂 和郷
- 第58回 (平成28年度) 昼間たつお・齊藤すず子
- 第59回 (平成29年度) 関戸 信治・門谷 杜人
- 第60回 (平成30年度) 増田都美子・増成 栗人
- 第61回 (令和元年度) 長濱 聰子・大会中止

新春交流会のし案内

令和三年の新春交流会の俳句会はコロナウイルス感染防止に鑑み文音俳句会とし、祝賀会は中止とします。第六回俳句大賞の贈賞式は例年の通り行います。

日時 令和三年二月十一日(木・祝)

会場 千葉市民会館三階特別会議室2
千葉市中央区要町一番一号

TEL 〇四三一二四一二四三二

一、第六回俳句大賞贈賞式 午後一時受付開始

三階特別会議室2

二、新春交流俳句会(文音) 午後二時

三階特別会議室2

投句 二句(事前投句)

投句料 一、〇〇〇円

申込み締切り 令和二年十二月三十日

申込み方法 所定の用紙に、俳句二句と指定事項を全て記載の上、投句二句と千円を同封して左記へお申込み下さい。

(現金書留または郵便小為替で送付。会費の返却はいたしません。)

選句は協会役員・理事にて行い投句者全員に作品集を入賞者には賞品を送ります。

申込先

〒278-00037

野田市野田81 倉岡けい方

千葉県俳句作家協会 新春交流会係

電話 04712412130

問合せ先 新春交流会担当 平岡育也

電話 043125117284

千葉県俳壇二ニュース

当協会秋尾敏理事長

第七十五回現代俳句協会賞受賞

当協会理事長・全国俳誌協会会長・現代俳句協会副会長等を務める「軸」主宰秋尾敏氏の句集『ふりみだす』（「真木」一九二号紹介）が、「第七十五回現代俳句協会賞」を受賞された。慶祝。

本賞は、二〇一九年中に刊行された現代俳句協会会員の句集の中から、第一次選考（三十二編）を経て選出された最終候補（十二編）について審査を行い決定されたものである。（編集部記）

当協会加藤事務局長

第十二回文學の森賞・入賞受賞

当協会の事務局長加藤峰子氏の句集『鼓動』（「真木」一八八号紹介）が「第十二回文學の森賞・入賞」を受賞された。慶祝。

本賞は二〇一八年四月～翌年三月末日の間に「文學の森」にて刊行された書籍を対象に、第一次選考、最終選考を経て決定されたものである。（編集部記）

「浮巢」誌創刊五〇〇号達成

大木さつき主宰の「浮巢」は、本年六月号を以って通巻五〇〇号に達した。これを記念して五月・六月号を合併号にして、一七〇頁余の大冊「創刊五〇〇号記念特集」を発行された。慶祝。

星野椿「玉藻」名譽主宰の〈祝 浮巢五〇〇号〉、大久保白村日本伝統俳句協会副会長の随想、井上緑水氏のエッセー、〈浮巢五〇〇号と卒寿の会〉の特詠、十名執筆による〈俳句と随想〉、大木さつき句集〈冬麗〉再詠の澤村氏、〈遙かな日々〉を読むの内田氏、併せて大木格次郎句集〈水源〉を辿るを津々柴朋世氏が執筆している。

各自十句選の〈浮巢会員自選句集〉は、一一八名の参加者で六十五頁に及び、まさに本誌に組み込まれた合同句集である。その他内容豊富な特集号となった。

旅ごころほぐるる雨の寒桜 大木さつき

（「浮巢」五・六月合併号より）

市原市春季俳句大会

七月五日、コロナ禍で延期となった市原市春季俳句大会が初夏の日射しの中、四十四名の参加者を得て、五井会館四階大ホールで行われ、席題の「打水」「夏燕」に取り組んだ。

主選者は鷹同人の岩永佐保先生にお願いした。

兼題の部

市原市長賞

摘み終へて風の音聴く藤山 鈴木 喬二

市原市議会議長賞

のどけしや時刻表なき渡し舟 松本 正子

市原市教育長賞

人に会ふ春愁の眉描きたして 三宅 文子

席題の部

市原市長賞

水打つて一番星を迎へけり 小澤 光世

市原市俳句協会賞

水打つて帰国の吾子を待つばかり 代田 雅文

市原市議会議長賞

屋上のわたしは帆船夏つばめ 長濱 聰子

市原市教育長賞

筑波領の風と化したり夏燕 木村 傘休

岩永佐保特選（兼題の部）

シーソーの地の子空の子春夕焼 松本 正子

ひつじ雲追へば牧童めきのどか 大関 博美

（西澤照雄記）

木更津市文化祭第四十四回市民俳句大会

日時 令和二年九月六日（日）一時～

会場 木更津市中央公民館・六階・第七会議室

主催 木更津市文化協会

今年はコロナ禍による様々な条件のなか、三密にならないように実施しました。

高点句（三句合志）代表句

- ① 酒蔵の閉じて久しき昼ちちろ 泉 志眞子
- ② 秋めくや川に日暮れの色残り 川合 憲子
- ③ 秋刀魚焼く妻より寡婦として長し 氏家 幸子
- ④ 東京が地図の折り目に終戦日 鈴木 秀朗
- ⑤ 過去未来筆筭に詰めて秋暮るる 坂本千恵子
- ⑥ 親しみの距離を保ちて鳳仙花 小原 幸子
- ⑦ しきたりを半分守り盆用意 坂井芙美子

（実行委員長川合憲子記）

「瀬祭」誌創刊九十五周年特別号発行

本田攝子主宰「瀬祭」は、本年八月にて創刊九十五周年を迎え、本誌八月号・九月号を記念特別号①・②として発行した。慶祝。通巻一〇六三号。大正十四年、吉田冬葉氏によつて創刊。本田氏は七代目の主宰を継承し今日に至る。

主宰は巻頭言で、技巧に走ることなく知識のひけらかしや奇を衒う事なく自己を確立し、不易流行を志すというのが「瀬祭俳句」の理想ではなからうか、と歴代主宰から受け継がれた精神を述べた。特集の随想は、各地域で瀬祭の発展に尽くした指導者を、九名（八月号に五名、九月号に四名）が其々執筆し本誌を飾った。

西日射すうすもいろいろの句短冊 本田 攝子

（「瀬祭」八月・九月号より）

「沖」誌創刊五十周年記念号発行

能村研三主宰「沖」は本年十月号で創刊五十年を迎え、同号を「創刊五十周年記念号」として、三五〇頁余の大冊を発行した。慶祝。

主宰が（創刊五十周年を迎えて）を執筆。

能村登四郎主宰から主宰を継承して粗二十年、俳句を初めてから五十年、古希を迎えられたとのこと、「沖」五十年の感慨と今後の更なる決意を記す。主宰記念作品五十句、副主宰同作品三十句、諸氏による特別寄稿、氣多大社における主宰句碑、沖五十周年に残す私の大切な一句、等を掲載。

中でも「沖の源流」では、創刊号より五十周年に至るまでのすべての同人の作品と、沖作品選後評を収載。この企画は一年半前から作業を始めた由、一一三頁に及び圧巻である。本誌は五十年の歴史を飾るに相応しい記念誌となった。

意中なる仮想句敵銀河燃ゆ 能村 研三
（「沖」十月号より）

結社賞

令和二年度「鴻」結社賞

第十四回「鴻」賞 荒井一代

狐の剃刀したたかに雨がくる 一代

第四回「鴻」特別功労賞 良知悦郎

秋茗荷水辺の風の重さうに 悦郎

第二回「鴻」特別賞 岩崎 俊

神域の一木の揺れ祭笛 俊

第十四回「鴻」新人賞 山岸明子

星飛んで音なき調べ広がり 明子

（「鴻」六月・七月号より）

第十八回（令和元年度）「万象」新人賞

新人賞 中鉢弘一

アカシアの若葉をわたる時鐘かな 弘一

（「万象」八月号より）

会員著書紹介

流山俳句協会合同句集

●「味醂の里」

流山俳句協会 編

流山俳句協会刊行の第一句集である。

会長北川昭久氏が本句集の刊行にあたり執筆。当協会は「俳句愛好者の交流と新人の育成」を掲げ、傘下十句会の交流の場として「初夏の俳句会」と「文化祭俳句大会」を開催しているが、この度更なる試みとして「合同句集」を新たに発行されたとのこと。句集名は、地域との繋がりを考慮して命名された。継続発刊と内容の充実を図ればと記す。八十四名の近詠七句を収載の充実集。県俳句作家協会会員の作品を紹介。

連句碑や言霊深く竜の玉 北川 昭久

ロシア古都白夜に浮かぶ塔あまた 小野 正之

老木の幹にひ孫のやうな花 富沢 まみ

春寒しうすむらさきの遠筑波 富永 美南

万の喝采水鳥の皆発てば 浪岡 郁子

（令和2年3月発行・流山俳句協会）

●句集『天恵』

伊藤 隆 著

「いには」同人の著者の第一句集。米寿を記念して上梓された。季別の五章仕立てにし、三三四句を収載。村上喜代子主宰が序文で、「いには」創刊号の著者の句に触れて、最初から格調が高く初心者とは思えず、句がおおらかである。現在に至って感性の若さを称讃。表題は、〈息災は天の恵みよ明の春〉による。千葉県中鄉村(現木更津市) 生れ、千葉市在住。俳人協会会員。

ひたすらに逃水追ひて晩年へ
花冷やゴリラは樹下に只管打坐
万緑を貫き鉄路ひた走り
眼光はボクサーのごと羽抜鶏
水仙や沖に一舟動かざる

(令和2年7月発行・ふらんす堂)

●句集『柳の木』

小河原清江 著

著者の第一句集。平成元年「風濤」同人、二十五年「沖」同人。傘寿を迎えるに当たり上梓された。平成十六年以降の作品二九七句を収載。表題は、著者の敷地内にある樹齡三百年の樹、〈柳の葉を懐紙に添へて女正月〉へ柳一樹不撓不屈や野分中から、能村研三主宰が命名。さらに丁寧な序文を、温い跋文を森岡正作副主宰が寄せる。千葉県生れ、大網白里市在住。主宰抄出帯文より。

元朝や屋敷稲荷へ灯をともす
折紙の鶴に翼や星迎
潮風を満身に受け上総風
総の国睡なきごとく大青田
余生とはまだある未来半夏生

(令和2年7月発行・文學の森)

●句集『新走』

関戸信治 著

「いには」同人。句集『直立都市』に次ぐ第二句集。いには叢書十四集。平成二十年から令和元年までの作品三三四句を収載。序文を執筆の村上喜代子主宰は、著者について、多作多捨の作家で、人情に篤く義に脆く情の深い人と述べ、多種多彩な一集の上梓を祝う。また、書道家楠天然氏揮毫の挿入句が誌に花を添えている。東京都生れ、世田谷区在住。現代俳句協会会員・俳人協会会員。

さくらんぼまだ生きてゐる恋敵
ふるさとがつんと匂ひし隙間風
千の田に千の水口遠河鹿
いろいろがあつて晩節新走
新走一人が校歌うたひ出す

(令和2年7月発行・東光社)

●句集『真水のように』

下村洋子 著

「遊牧」同人の著者の第一句集。編年体の五章仕立てにて三五二句を収載。塩野谷仁代表が序文を。〈涙腺をたどりて行けば罌粟の花〉

もともと下村洋子さんは「叙情体質の人だった。勝手な想像なのだが、自己に忠実に、そしてひたむきに生きてこられたように思われる。そんなある日「涙腺」の先に「罌粟の花」が無邪気に咲いていた。そのとき「罌粟の花」は下村さんの生き様そのものであったに違いない。と結ぶ。長野県生れ、鎌ヶ谷市在住。千葉県現代俳句協会幹事。

十五夜の真水のように服纏う
終咲く危険思想の入り口に
たましいのはぐれたあたり芥子の花
夫逝く星を砕きし霜降りる
わたくしの流砂はじまる緑の夜

(令和2年8月発行・本阿弥書店)

ひろば

県内俳句協会・俳句連盟紹介

富津市文化協会

富津俳句サークル

富津市は昭和四十六年四月、三町(富津、大佐和、天羽)が合併して富津町となり後に富津市となりました。文化協会(以後文協と略)は昭和四十八年三月に発足、設立総会が富津公民館で開かれました。俳句サークルは文協の文学部の一つとして活動を開始、神子主宰のちに稲村夢花主宰(高浜虚子の直弟子・故人)の下で毎月開催・参加者の減少で一時的休止。
ある年文協主催の芸術祭(六月)に俳句部門がカットされているのを見た「富津文化(文協の会報)」の編集長の小嶋一朗氏が文協会長の

吉本充氏と共に三枝一雄氏宅を訪れ懇願。現役の医師ながら大学時代から俳句を磨いてきた三枝氏は了承され、「上総ホトトギス俳句会」をその年の七月に発足させました。
以来毎月公民館や上総モラロジ事務所を借りて吟行句会を続け現在に至っています。
句会の選者は初め三枝一雄先生と奥様ふみ代先生でしたが途中より増田善昭先生(現千葉県ホトトギス会長)もお出でいただき御指導を受けています。
「上総ホトトギス俳句会」での特選入選の句のうち五句が広報「ふつつ」に掲載されます。前出の小嶋氏の手により「文協」の俳句会の句は「松風」として毎月まとめられ配られています。
(千葉県俳句作家協会理事・川崎直子記)

●句集『すみだの風』 広海あぐり 著

本名山下ひろみ。「沖」同人、同誌の編集部で活躍の著者の第一句集。古希を迎え上梓された。平成二十四年「沖」入会以前の作品から、現在までの二八五句を収載。序文を能村研三主宰が、跋文を森岡正作副主宰が、共に懇切丁寧な文をよせ、著者の第二句集への期待で結ぶ。千田百里同人会長が心地よい風を呼ぶ帯文を。恵まれた句集である。東京生れ、葛飾区在住。俳人協会会員。

炎昼の思惟仏思惟を解くことなし
根津権現婆娑羅ばさらと樟青葉
ひらがなの町きさらぎの雪の降る
鳥帰るいつしか隅田故郷に
寒蛭洗へばしやらと鉄の音

(令和2年9月発行・弘文社)

●句集『中今』 高橋健文 著

「好日」の主宰、当協会理事を務める著者の第三句集。句集名は〈而して至る中今(なかつま)桐の花〉に依る。中今とは、過去と未来との真ん中の今、遠い無限の過去から遠い未来に至る間としての現在。とこと。平成二十一年から令和元年までの作品三二二句を六章に分け収載。

宮城県生れ、松戸市在住。「好日」青雲賞受賞・好日賞受賞、千葉県現代俳句協会副会長・俳人協会千葉県支部幹事。句集『白墨』『水の器』。
雪晴の東京遠くまで淋し
春眠しアラビア文字のごとき午後
木守柿いつも日暮を待つてゐる
遠き葬列麦秋の中を来る
梟の樹があり月の上りけり

(令和2年10月発行・東京四季出版)

●校注『俳諧田ことの日』 山奴 編著

「軸」主宰、当協会の理事長を務める秋尾敏氏の校注、筑波大学綿拔豊昭教授の監修によって上梓された江戸時代の歳時記・類題句集である。

秋尾氏のとがきによると、本書は秋尾氏が館長を務める俳句図書館鳴弦文庫の講座「古俳書を読む会」では、俳諧と翻字の基本を身につけようと、講師に綿拔氏を招き、平成十九年から月一回の講座にて、江戸期・明治期の俳書の翻字を学んできて、郷土の俳書を翻刻しておく重要性と、千葉県俳句史に少しでも奇与するところがあればとの思いから、翻刻して残すことにしたとのこと。
「軸」同人による「古俳書を読む会」で翻字したものを纏められた一集。
非常に貴重な俳書であり資料である。

(平成2年10月発行・俳句図書館鳴弦文庫)

受贈誌より

あびこ(三五〇号) 沼風の薫る直哉が旧居跡 染谷 卓
いには(十月号) 津波来し高さ百合咲く崖を指す 村上喜代子
浮巢(十月号) 竹伐りて夜はわが灯り路地へ洩る 大木さつき
沖(十月号) 喜んで祭喧嘩を買うてやる 能村 研三
音信(十月号) 名月を待ちてほど良き松手入れ 白鳥紅星子
かずさホトトギス(六一三号) 雨音は瀬音に消ゆる半夏生 三枝かずを
響焰(十月号) 幻想曲ピアノは月光に濡れて 米田 規子

草の美(九月号) 語り継ぐものな忘れそ終戦日 逸見 真三

原人(九月号) 昼ふかくだあれもゐない蝸牛 昼間たつお

鴻(十月号) 盆三日遠州灘の波太鼓 増成 栗人

好日(十月号) 少年に沈まぬ夕日かぶと虫 高橋 健文

祭演(六十一号) 入道雲の余白自転車こいでいる 森須 蘭

雑草(十月号) 典型にキリンの首あり晩夏光 実粉 繁

鳴(十月号) 災天や遮断機急に下りさうな 高橋 道子

軸(十月号) 月光の魚たち影を譲りあう 秋尾 敏

新曆(終刊四〇〇号) 咲き急ぎ散り急ぐ花ステイホーム 中路 素童

瀬祭(十月号) 螻螂の一步も退かぬ道険し 本田 攝子

夏日(三六五号) 捨つるものあまたよ秋の火蛾の舞ふ 望月 百代

野火(十月号) 滝の芯わづかに外し滝行者 菅野 孝夫

初蝶(十月号) 八月来讀美歌どれも疎覚え 中山 和子

万象(十月号) 重き辞書婆娑と閉づれば微匂ふ 内海 良太

ベガサス(八号) QRコード緑蔭がいつぱい 羽村美和子

百鳥(十月号) 林火忌や今も鼓舞され叱咤さる 大串 章

遊牧(二二九号) 七月のかなしみ流木のかたち 塩野谷 仁

ろんど(十月号) 泡盛の壘の一輪沖繩忌 すぎき巴里

締切り迫る!!

第6回千葉県俳句大賞

- 【応募条件】** 千葉県内に在住し、令和元年12月1日～令和2年11月30日までに刊行した句集より審査します。当協会に加盟されているか否かは問いません。現在当協会の役員をされている方は応募できません。
- 【応募方法】** 自薦、他薦は問いません。千葉県俳句作家協会担当者まで句集と同句集からの自選20句（自薦・他薦にかかわらず）をお送りください。20句はA4用紙1枚（冒頭に句集名・作者名明記）に記入してください。
- 【応募締切】** 令和2年11月30日 必着
- 【顕彰】** 大賞 表彰盾、賞金5万円
準賞 表彰盾、賞金3万円 ・奨励賞 表彰盾、賞金1万円
- 【応募先】** 〒271-0092 千葉県松戸市松戸 2274-5 佐藤 映二方
千葉県俳句作家協会顕彰部「千葉県俳句大賞」係宛
※ 封筒の表に「千葉県俳句大賞応募」と朱書きしてください。
- 【選考委員】** 能村研三 増成栗人 三枝かずを 塩野谷仁 秋尾 敏 村上喜代子
- 【表彰】** 令和3年2月11日（祝日）新春交流俳句会の席上にて表彰します。

第35回協会賞の作品募集

- 募集句数** 20句 新作未発表の作品で「題名」を付す
- 審査料** 3,000円 応募作品に郵便小為替同封のこと
- 締切** 令和2年12月15日（火）必着
- 審査員** 秋尾 敏 川合 憲子 三枝かずを 塩野谷 仁
田所 節子 能村 研三 増成 栗人 村上喜代子
- 賞金** 3万円
- 発表** 会報「真木」誌上に発表し、総会の席上で賞状・賞金又は賞を授与
月刊誌「俳句界」に入賞作品を掲載
- 投句先** 〒270-1138 千葉県我孫子市下ヶ戸 285 番地 染谷 卓方
千葉県俳句作家協会事務局 宛
- 投句用紙** ◇ B4版 400字詰め原稿用紙1枚を使用。
◇ 右欄外に「題名」
◇ 末尾欄外に「郵便番号・住所・姓号・電話番号・所属・俳歴・年齢」を楷書で明記。
◇ 右上欄外に「新仮名遣い使用」或いは「旧仮名遣い使用」と明記。

基金御礼 (令和二年九月三十日現在)

石井紀美子	栗原 公子	川崎 直子
大久保文夫	清水佑実子	西澤 照雄
大木さつき	時田 孝子	町山 公孝
金澤 恵子	村上喜代子	多田ユリ子
座古 稔子	峰崎 成規	鳴戸 奈菜
志田佐代子	頼所 友枝	村田 満枝
三枝 一雄	高木 一恵	滝口 滋子
多胡たかし	菊地 光子	須山 登
楠原 幹子	堀合 優子	昼間たつお
川俣婦美子	木村秋草子	佐藤 映二
望月 百代	井上けい子	森 孝子
東 國人	中川 素子	染谷 秀雄
本池美佐子	染谷 卓	荒木 甫
坂本 正夫	新井 京子	白井 淳子
倉持 紀子	川崎 和子	野口 糸朗
俳誌ろんど発行所		田村 雅子
松田 雄姿	吉田 政江	秋元大吉郎
井原 美鳥	加藤 峰子	白鳥 秀幸
川上 信也	相原 一枝	田所 節子
中尾 教子	小林 愛子	川合 憲子
越野 雄治	村上 葉子	石崎 和夫
坂本 節子	木村 傘休	高橋 健文
豊島 京子	菊地 善己	白鳥紅星子
田崎多美子	木之下みゆき	藤代 康明
椿(小阪)照子	岡 真紗子	北村 操
中屋ゆずる	尾形 和子	馬淵 津枝
平野 都	伊藤 隆	中川 素子

(以上 一〇七口、二十一万四千円)

千葉県俳句作家協会運営基金のお願い

千葉県俳句作家協会のさらなる発展のため、運営基金を募集致します。皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

◇一口 二千元

◇送付先 千葉県俳句作家協会基金口

郵便振替 〇〇一四〇〇一七九二〇八三

基金にご協力頂いた方のご芳名を会報「真木」に記し領収に替えさせて頂きます。

会費納入のお願い

年会費は前納です。協会の円滑な運営のため、まだ納入されていない方はお早めの納入をお願い致します。

年会費 三,〇〇〇円

年会費送付先 千葉県俳句作家協会

郵便振替口座 〇〇一五〇一六一三五二三四四

広告募集のお知らせ

「真木」に掲載の広告を募集します。

お申込みお問合せは左記へお願い致します。

〒二七六〇〇四二

八千代市ゆりのき台三ー四エルプレシア一〇一

千葉県俳句作家協会・広報部 前北かおる宛

電話〇四七五〇一ー四五五

新入会員一句

山吹の花月光を食べつくす

三浦 侃

蛇穴を出て透き通るほどの飢え

下村 洋子

薫風はアダージョ島原篠の笛

広海あぐり

事務局日誌

◆第三回理事會

(文書理事會により全理事に次第及び資料郵送)

日時 令和2年8月22日(土)

事項 1 第62回千葉県俳句大会について

2 合同句集第10集の新抄状況について

3 会報「真木」一九五号について

4 その他 事務局報告

会員異動

新会員

三浦 侃(野田市) 下村 洋子(船橋市)

広海あぐり(葛飾区)

謹計

脇尾 恵雄

中村 節子

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

・前号の目次に誤植がありました。頁10は9となります。ご容赦の上ご訂正をお願い致します。

・千葉県俳句大賞(十一月三十日)・協会賞(十二月十五日)の締切りが迫っています。本号8頁に案内があります。皆々様、ご応募ください! (紀)

歩いて俳句

創刊 鳥居三朗
師系 今井杏太郎

主宰 飯田 晴

雲発行所

〒276-0023 八千代市勝田台一七七一
D110005
電話 & FAX 〇四七・四八七・七二二七

心を満たす俳句

「鴻」俳句会



主宰 増成栗人
師系 角川源義 吉田鴻司

発行所 〒271-0087 松戸市三矢小台二四一六谷口方
電話 〇四七・三六三・四五〇八
FAX 〇四七・三六六・五一〇〇

◆誌代/年間 二、〇〇〇円

人間の総量を

代表 高橋道子
創刊 田中午次郎
再刊 伊藤白潮

誌代 一ヶ月 一、〇〇〇円(送料共)
一年 一、二〇〇〇円

〒277-0827 柏市松葉町四七二二三〇五
荒木甫方 鳴発行所

電話 〇四七・三三三・七六三二
振替 〇〇一八〇・四一六・一五七二
http://shigi-haikukai.com/

月刊 夏目

のびやかに自分史としての俳句を作る

主宰 望月百代

誌代(送料共) 半年 六、〇〇〇円
一年 一、二、〇〇〇円

〒270-0034 松戸市新松戸七二二三
夏目発行所

FAX 047-345-6351
振替 〇〇一三〇・八一・一〇九六

月刊俳誌 沖

俳句ルネッサンス

主 宰 能村 研三

新会員募集中

誌代 1年/15,600円
半年/7,800円
見本誌 1冊 800円

沖発行所
〒272-0021 市川市八幡6-16-19
TEL 047-334-4975
FAX 047-333-3051
振替 00170-6-161552

創刊 50周年

軸 俳句会

主宰 秋尾 敏

〒278-0005 野田市宮崎95-4
電話 04-7122-3921
Fax 050-5552-9110
84円切手3枚で見本誌贈呈

俳誌 あびこ

誌代(隔月刊) 一年 四〇〇〇円

〒270-1138 我孫子市下ヶ戸二八五
TEL 〇四七・二八二・四四四一

郵振替 〇〇一〇〇・四一八・九〇七四

あびこ俳句同好会

一度きりの今を楽しむ

いには

主宰 村上喜代子

新会員歓迎・添削指導します。

誌代 1年 12,000円(月刊)
半年 6,000円 見本誌 500円

— いには俳句会 —

〒276-0036 千葉県八千代市高津 390-211
電話 047-458-1919
Fax 047-458-1895
振替 00280-9-131469
HP検索: いには俳句会

現代俳句同人誌 遊牧

代表 塩野谷 仁

同人費 一年 二〇〇〇円
誌友費 一年 六〇〇〇円

〒273-0033 船橋市本郷町五〇七二二三〇七
遊牧俳句会

電話 〇四七・三三六・一〇八一
FAX 〇四七・三一五・七七三八